

SPF 豚認定農場の生産成績と表彰制度

日本 SPF 豚協会は、平成 6 年から SPF 豚農場認定制度を実施しているが、平成 14 年に認定評価基準の大幅な改定を行った。これにより、認定農場の生産成績の分析及び評価が容易になったので、その結果をもとに、平成 19 年度より生産成績優秀農場の表彰制度を発足させた。

I. 生産成績評価基準

CM 農場は一貫生産農場、肥育用素豚生産農場および肥育専門農場の 3 つに分けられている。その農場分類ごと、評価項目ごとに下記の基準値（表 1）が決められている。

この評価基準は 2002 年度（平成 12 年度）の SPF 豚認定農場の生産成績の平均値を採用している。この基準値に対する評価項目の実績を指数化して総合的に生産成績を評価する。

II. 生産成績

今回の表彰対象の一貫生産農場の、平成 16 年度から平成 18 年度の生産成績を表 2 に示す。

農場回転数、出荷肉豚 1 頭あたりの A 薬品費、1 母豚年間分娩回数、1 母豚あたり年間哺育開始頭数は生産者の日々の努力が表れている。

しかし、成績の変化をみると、現状の疾病事情を反映しているように思える。

主たる特徴は

- ①農場飼料要求率の悪化傾向
- ②肉豚出荷率の低下（離乳後死亡・淘汰率の上昇）に比例した 1 母豚あたり年間肉豚出荷頭数の減少傾向
- ③出荷肉豚 1 頭あたりの A、B、C 薬品費の増加傾向
- ④離乳時育成率が 92%弱と低位

である。

表 1：評価項目の基準値

一貫生産農場	1) 農場回転数	1.70
	2) 農場飼料要求率	3.19
	3) 母豚 1 頭あたり年間肉豚出荷頭数	21.35 頭
	4) 出荷豚 1 頭あたり A 分類薬品費	286 円
肥育用素豚生産農場	1) 母豚 1 頭あたり年間分娩回数	2.30
	2) 母豚 1 頭あたり年間離乳頭数	22.53 頭
	3) 母豚 1 頭あたり年間肉豚出荷頭数	21.43 頭
	4) 出荷豚 1 頭あたり A 分類薬品費	282 円
肥育専門農場	1) 農場飼料要求率	3.30
	2) 肉豚死亡・淘汰率	2.5%
	3) 出荷豚 1 頭あたり A 分類薬品費	125 円

表 2：生産成績（一貫生産農場）

項 目	'04 年度	'05 年度	'06 年度	3 ケ年平均
農場回転数	1.74	1.62	1.71	1.69
農場飼料要求率	3.23	3.29	3.35	3.29
1 母豚あたり年間				
肉豚出荷頭数（頭）	20.73	20.41	20.42	20.52
1 腹あたり（頭）	8.97	8.84	8.84	8.88
肉豚 1 頭あたり A 薬品費（円）	199	195	206	200
総合生産指数	104.92	104.19	103.34	104.15
分娩回数	2.31	2.31	2.31	2.31
1 母豚あたり年間				
哺開頭数（頭）	24.38	24.40	24.32	24.37
1 腹あたり（頭）	10.55	10.56	10.52	10.55
1 母豚あたり年間				
離乳子豚数（頭）	22.36	22.36	22.32	22.35
1 腹あたり（頭）	9.68	9.68	9.66	9.68
離乳時育成率（%）	91.71	91.64	91.78	91.71
出荷日令（日）	185.58	184.80	184.31	184.90
出荷体重（Kg）	113.06	112.60	112.75	112.80
肉豚出荷率（%）	94.02	92.99	92.06	93.02
離乳後死亡淘汰率（%）	5.98	7.01	7.94	7.98
肉豚 1 頭あたり B 薬品費（円）	324	361	410	365
肉豚 1 頭あたり C 薬品費（円）	272	280	299	284

Ⅲ. 上位 25% の農場の生産成績とその特徴（表 3-1 ～ 3 参照）

① 上位 25% 以内に入る農場の顔ぶれが固定化している。

3 年連続で上位 25% に入っている農場は 19 農場

2 年上位 25% に顔を出している農場は 12 農場

② 出荷肉豚 1 頭あたりの A 薬品費（抗菌剤）が少ない（平均 62 円）。

③ 農場飼料要求率が低い（平均 3.07）。

④ 肉豚出荷率が高い（平均 96.46%）。すなわち、離乳後の死亡・淘汰率 3.54% ということ。ちなみに、離乳育成率は 92.43%。

⑤ 母豚の年間分娩回数が高位安定維持（平均

2.34）。

⑥ 母豚の年間肉豚出荷頭数が多い（平均 22.38 頭）。

1 腹あたり哺育開始頭数は 10.74 頭

1 腹あたり離乳子豚頭数は 9.92 頭

⑦ 肉豚の出荷日令が短い（平均 174.51 日）。出荷生体重は 113.05kg。

⑧ 母豚規模の小さい家族経営的な管理手法が、成績を上げるためには有利と考えられがちであるが、表 3-2 を見ると必ずしも一概には言えない気がする。

⑨ 上位 25% 農場の地域分布をみると（表 3-3）、北海道、東北、甲信越・東海の農場が数多く入っている。関東以西は上位入賞率が低い。これは、北海道、東北、甲信越・東海に比べ、

SPF 豚認定農場の生産成績と表彰制度

肉豚出荷率が低く、出荷肉豚1頭あたりのA薬品費の使用の多いことが原因となっている。

これらの特徴のうち

②, ④は農場内の疾病コントロール技術と意識の高さに由来すると考えられ, ⑤, ⑥は

候補豚の育成, 母豚及び種雄豚の健康維持, 分娩舎での管理, 離乳後の母豚の管理等一連の種豚管理の技術が高い水準にあることを示している。

⑨には地域の疾病の状況が大きく関与していると思われる。

表 3-1: 上位 25%農場の生産成績

項目	'04年度	'05年度	'06年度	3ヶ年平均
農場回転数	1.86	1.88	1.93	1.89
農場飼料要求率	3.13	3.03	3.06	3.07
1母豚あたり年間				
肉豚出荷頭数(頭)	22.17	22.16	22.81	22.38
1腹あたり(頭)	9.47	9.47	9.71	9.55
肉豚1頭あたりA薬品費(円)	62	58	66	62
総合生産指数	119.09	120.25	121.17	120.17
分娩回数	2.34	2.34	2.35	2.34
1母豚あたり年間				
哺開頭数(頭)	24.99	25.19	25.30	25.16
1腹あたり(頭)	10.68	10.76	10.77	10.74
1母豚あたり年間				
離乳子豚数(頭)	23.05	23.23	23.49	23.26
1腹あたり(頭)	9.85	9.93	10.00	9.92
離乳時育成率(%)	92.24	92.22	92.85	92.43
出荷日令(日)	175.26	173.29	174.98	174.51
出荷体重(Kg)	113.56	113.27	112.31	113.05
肉豚出荷率(%)	96.26	96.43	96.69	96.46
離乳後死亡淘汰率(%)	3.74	3.57	3.31	3.54
肉豚1頭あたりB薬品費(円)	214	202	203	206
肉豚1頭あたりC薬品費(円)	246	249	242	246

表 3-2: 上位 25%農場の母豚規模別分布(農場数)

	'04年度	05年度	'06年度
100頭未満	4 (24)	2 (19)	2 (19)
100頭以上~500頭未満	21 (77)	23 (79)	21 (79)
500頭以上~1000頭未満	4 (19)	4 (20)	8 (22)
1000頭以上	4 (10)	4 (11)	2 (11)
合計	33 (130)	33 (129)	33 (131)

()内の数字は対象農場数

表 3-3：上位 25%農場の地域別分布（農場数）

	'04 年度	'05 年度	'06 年度
北海道	6 (9)	9 (12)	8 (12)
東北	6 (19)	9 (19)	10 (20)
関東	5 (55)	4 (53)	3 (53)
甲信越・東海	7 (9)	4 (7)	4 (7)
中国・近畿	2 (7)	2 (8)	1 (8)
四国	2 (12)	1 (11)	4 (11)
九州・沖縄	5 (19)	4 (19)	3 (20)
合計	33 (130)	33 (129)	33 (131)

() 内の数字は対象農場数

IV. 上位 10%の農場の生産成績とその特徴（表 4-1～2 参照）

生産指数上位 10%の農場の 3 年間の成績も集計（表 4-1～2 参照）してみたが、このランクの農場も固定化している。3 年間連続して上位 10%

（該当は 13 農場）に入っている農場は 5 農場、2 年上位 10%に顔を出している農場が 9 農場で、残る議席が毎年入れ替わっている。上位を維持し続ける農場は問題点の発見力とその解決力が非常に高いからであろう。何年も高いモチベーションを維持させ、成績に反映させる日々の努力が重要で

表 4-1：上位 10%農場の生産成績

項 目	'04 年度	'05 年度	'06 年度	3 ヶ年平均
農場回転数	1.96	2.05	1.99	2.05
農場飼料要求率	3.09	3.02	2.92	3.01
1 母豚あたり年間				
肉豚出荷頭数（頭）	23.18	23.58	24.02	23.59
1 腹あたり（頭）	9.74	9.87	10.05	9.89
肉豚 1 頭あたり A 薬品費（円）	41	41	32	38
総合生産指数	123.62	125.68	127.39	125.56
分娩回数	2.38	2.39	2.39	2.39
1 母豚あたり年間				
哺乳頭数（頭）	25.55	26.19	26.50	26.08
1 腹あたり（頭）	10.74	10.96	11.09	10.93
1 母豚あたり年間				
離乳子豚数（頭）	23.89	24.63	24.65	24.39
1 腹あたり（頭）	10.04	10.31	10.31	10.22
離乳時育成率（%）	93.50	94.04	93.02	93.52
出荷日令（日）	169.48	169.24	170.13	169.62
出荷体重（Kg）	113.14	113.84	112.92	113.30
肉豚出荷率（%）	96.87	97.06	96.79	96.91
離乳後死亡淘汰率（%）	3.13	2.94	3.21	3.09
肉豚 1 頭あたり B 薬品費（円）	169	167	152	163
肉豚 1 頭あたり C 薬品費（円）	164	237	214	205

表 4-2：上位 10%農場の母豚規模別分布（農場数）

	'04 年度	'05 年度	'06 年度
100 頭未満	1	0	1
100 頭以上～500 頭未満	9	9	8
500 頭以上～1000 頭未満	1	2	2
1000 頭以上	2	2	2
合 計	13	13	13

() 内の数字は対象農場数

ある。

V. 生産成績優秀農場表彰制度

1. 表彰規定

1) 選考委員会の設置

年に 1 度、選考委員会を開催、優秀農場を選出する。選考委員は、認定委員長、正副会長とする。

2) 最優秀賞の設定

一貫生産農場において「総合生産成績最優秀賞」、また部門賞として「商品化頭数最優秀賞」を設ける。

なお、繁殖専門農場、肥育専門農場についても表彰制度を設けるが、現在は農場数が少ないことから、農場数が一定数に達するまで、当面の間選考を見送る。選考の開始時期・選考基準については、選考委員会で協議する。

3) 選考基準

- (1) 生産指数が 3 年間連続で上位 25% に位置付けされる農場を選抜する (1 次選抜)。
- (2) 1 次選抜農場の 3 年間の生産指数平均値を算出する。
- (3) 総合生産指数の平均値が最高の農場を総合生産成績最優秀賞、さらに、1 母豚あたり年間肉豚出荷頭数の平均値が最高の

農場を商品化頭数最優秀賞の候補とする。

- (4) 候補農場の防疫設備・管理基準について、所属ピラミッドの認定担当者による実態調査を行い、表彰にふさわしい高水準にあることを確認する。
- (5) 確認後、正式に該当農場を最優秀農場と決定、表彰状と記念品を贈呈する。
- (6) 防疫面における改善点および問題点が明らかになった場合は受賞資格がないものとし、次点農場を繰り上げ、同様の調査を行う。以下順次高位の農場を繰り上げ候補対象農場とする。

2. 平成 19 年度表彰農場

平成 19 年度（表彰対象年度：平成 16 年度～平成 18 年度）表彰農場は次の 2 農場で、第二回交流会（平成 19 年 11 月 6 日）で表彰授与された。

総合生産成績最優秀賞

富良野スワインファーム(有)：北海道
(所属ピラミッド ホクレン)

総合生産指数 128.18

商品化頭数最優秀賞

(有)胆沢養豚：岩手県
(所属ピラミッド シムコ)

1 母豚あたり年間出荷頭数 25.70 頭